

京都山城総合医療センター
第四次経営計画進捗状況
(令和3年度上半期報告)

令和3年11月

国民健康保険山城病院組合

目 次

1. 経営計画主要項目
2. 経営計画の進捗状況
3. 医師の配置状況
4. 下期経営状況

1. 第四次経営計画主要項目

(1) 計画期間: 令和元年度～令和3年度

地域医療支援病院としてふさわしい医療機能や診療体制、診療実績及び地域に対する貢献など、より高次の病院を目指し取り組みを行う期間

(2) 重点テーマ及び取り組み内容

地域住民にとってより良い医療を提供すること、すなわち「住民医療の推進」を重点テーマとし、職員の主体的参加によって、次の3分野に重点的に取り組む。

1. 地域医療支援病院(上位の急性期病院)としての機能や体制の整備

- 1) 救急医療の充実
 - ア. 救急診療体制の充実
 - イ. 救急車応需率の向上、搬送件数の拡大
- 2) 需要拡大が見込まれる疾患への対応力強化
- 3) 安心して出産子育てできる環境の維持
- 4) 認知症医療の充実
- 5) 健診の充実
- 6) 職員の意識改革(ホスピタリティの向上)
 - ア. 住民目線の医療の構築
 - イ. 患者満足度の向上

2. 医療制度改革を先取りし、地域に貢献する取り組み

- 1) 病診連携のさらなる強化
- 2) 入退院支援の充実
- 3) 在宅医療のバックアップ機能の強化
- 4) リハビリテーションの充実
- 5) 訪問看護の拡充
- 6) 老健やましろとの連携強化

3. 活力ある組織づくり

- 1) 医療職に選ばれ、優れた医療職が集う病院づくり
- 2) 働き方改革への適切な対応
- 3) それぞれの部署・職種の生産性向上
- 4) 広報活動やイベントの充実

2. 経営計画の進捗状況

(令和3年9月末現在)

○ 達成済、△ 現在進行中、※ 以降に実施を目指す事項、⇒ 前年度の状況を継続、 未達成

施策	目標年度			備考
	元年度	2年度	3年度	
①地域医療支援病院(上位の急性期病院)としての機能や体制の整備	-	-	-	
1)救急医療の充実	-	-	-	
ア.救急診療体制の充実	-	-	-	
○ 救急専門医の配置	△	⇒	⇒	・救急部門に専任医師1名の配置体制を継続
○ 総合診療医の配置の検討		△	○	・医師1名(総合内科医)の配置
○ 救急看護認定看護師の配置などによる救急部門の設置	△	⇒	⇒	・R2年5月院内トリアージ導入 ・外来部門に救急看護認定看護師を1名配置体制を継続
○ 臨床検査技師・放射線技師等の検査体制の充実(24時間体制)				
イ.救急車応需率の向上、搬送件数の拡大	-	-	-	
○ 応需領域(疾患)の拡大	△	⇒	⇒	・R3年度上半期 救急車受入件数 1,197件
○ 夜間休日の診療体制の強化	△	⇒	⇒	・内科系、外科系の非常勤医師の派遣継続 ・非常勤医師(救急科)の派遣継続
○ 救急室と他の部門との連携強化(診療応援など)	△	⇒	⇒	・救急患者のスムーズな受入・応援体制の確立
2)需要拡大が見込まれる疾患への対応力強化	-	-	-	
○ 脳卒中、外傷、心血管、消化器、呼吸器、腎疾患などの急性期と終末期緩和ケアの充実	△	⇒	○	・R2年4月「一次脳卒中センター」の運用を開始し、脳血管障害の積極的な受入れを実施。 ・循環器内科(非常勤医師)の時間外診療体制を継続
○ 脳外科・整形外科の診療の充実		△	⇒	
○ 高度医療機器導入の検討(内視鏡手術支援ロボット等)				
3)安心して出産子育てできる環境の維持	-	-	-	
○ 周産期、小児の診療体制の維持・充実	△	⇒	○	・産科急変(出血・グレードA・CSなど)対応体制を強化 ・新型コロナ陽性の妊婦の分娩・帝王切開・新生児・小児の対応体制の強化
○ 妊娠、出産、育児期における相談体制の強化・地域との連携	△	⇒	○	・産後ケア事業、産後2週間健診・育児相談の継続。乳房外来の予約枠の増枠。 ・親活のリモート開催。小児BLS(1次救命処置)講習の開催等。

施 策	目標年度			備 考
	元年度	2年度	3年度	
①地域医療支援病院(上位の急性期病院)としての機能や体制の整備	-	-	-	
4) 認知症医療の充実	-	-	-	
○ 物忘れ外来など認知症外来の充実	△	⇒	○	・令和3年9月より、診察日を月2回から月3回へ増枠した。
○ 入院患者への認知症ケア加算の取得	○	⇒	○	・担当認定看護師を中心に活動を継続中(R1年8月「認知症ケア加算 I」施設基準取得)
○ 認知症患者増加に対応した補助者や見守りボランティアの導入	△	⇒	△	・コロナ禍により、傾聴ボランティアの活動は自粛している。
5) 健診の充実	-	-	-	
○ 受診枠の拡大	△	⇒	○	・R2年度、人間ドックの枠を拡大し、現在継続中。
○ オプション検査や食事提供などアメニティの充実	△	⇒	○	・R2年度、新オプション(骨密度・アレルギー検査)を追加し、現在継続中。
○ 専任医師の配置の検討				
○ 健診に特化した特別診察枠の設置(外来診察からの分離)の検討				
6) 職員の意識改革(ホスピタリティの向上)	-	-	-	
ア. 住民目線の医療の構築	-	-	-	
○ 外来から入院までスムーズなシステムの構築	△	⇒	△	・診療推進委員会を中心に、救急応需体制や地域包括ケア病棟の受け入れ体制などについて、継続的に協議、実践を行っている
○ 医療相談対応の充実	△	⇒	○	・専任看護師の配置体制を継続 ・週1回カンファレンスを行い、多職種で改善策を検討している。
○ 予約患者の待ち時間対策	△	⇒	⇒	・R3年8月、⑦番連携診療受付(紹介患者の受付)のスペースを拡充し、受付の段階での待ち時間解消を図った。
○ 接遇向上	△	⇒	△	・職員からの患者さんへの積極的な声かけの実施。 ・事務職員が外来フロアを巡回し、患者対応を行っている。
イ. 患者満足度の向上	-	-	-	
○ 患者満足度調査やふれあい箱等の意見の反映(一層の推進)	△	△	○	・2週間に1回ふれあい箱対応委員会を開催し、患者さんからのご意見について協議し、できる限り意見を反映している。

施 策	目標年度			備 考
	元年度	2年度	3年度	
②医療制度改革を先取りし、地域に貢献する取り組み	-	-	-	
1) 病診連携のさらなる強化	-	-	-	
○ 外来診療の紹介予約制の拡大	△	⇒	⇒	・R3年度上半期 紹介患者数5,148人、紹介率71.6%
○ 症状安定患者の地域医療機関への紹介の推進	△	⇒	○	・R3年度上半期 逆紹介患者数4,527人、逆紹介率81.4%
○ 診療所等からの入院依頼の全数受け入れ	△	⇒	⇒	・R3年度上半期 地域からの受け入れ患者数145人、前年同期での比較143.6%
2) 入退院支援の充実	-	-	-	
○ 入院前・退院支援の充実	△	⇒	○	・令和3年度上半期の入退院支援加算 I の算定件数は557件(目標:1,000件/年)。
○ 早期カンファレンスなど、在宅医療チームへのスムーズな退院時連携	△	⇒	○	・院内関係部署で患者の情報共有を行い、必要に応じて病院組合のサービス(訪問看護、通所リハビリなど)の利用を促進している
3) 在宅医療のバックアップ機能の強化	-	-	-	
○ 地域包括ケア病棟での軽度急性期受け入れ拡大	△	⇒	○	・R3年度上半期 地域からの受け入れ患者数145人、全受入件数の45%を占めている。
○ 地域包括ケア病棟でのレスパイト入院受け入れ拡大	△	⇒	○	・地域の関係機関からの問い合わせに対し、速やかに受け入れを実施している。
4) リハビリテーションの充実	-	-	-	
○ 入院での急性期リハビリテーション(脳血管・運動器・呼吸器・心大血管)の充実	△	⇒	○	・治療が必要な急性期患者のリハビリの充実を行っている。(脳血管・運動器・呼吸器・心大血管の充実)
○ 外来での回復期リハビリテーションの拡充	△	⇒	⇒	・令和3年度上半期 外来訓練件数503件
○ 回復期リハビリテーション病棟開設の検討		※	※	
○ セラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等)の増員		※	△	・急性期リハビリの充実に向け、現在人員増に取り組んでいる。
5) 訪問看護の拡充	-	-	-	
○ 重度・困難症例などの当院退院後患者や医療的ケア児への訪問看護の充実	△	⇒	○	・がん・難病・透析・医療的ケア児等、当院で担うべき対象患者を中心とした訪問看護の継続
○ 在宅医療に携わる地域の専門職との連携強化	△	⇒	○	・カンファレンスやケア会議等については、コロナ禍のため令和2年度以降、ZOOM会議や紙面での情報共有を行い連携を図っている。
○ 認知症疾患医療センターと連携した認知症患者の支援	△	⇒	△	・高齢で認知症を抱えた対象患者が増加しており、認知症疾患医療センターと積極的に連携を図り対応を進めている
○ 訪問看護ステーションの設置の検討及び訪問リハビリテーションの実施	△	⇒	⇒	
6) 老健やましろとの連携強化	-	-	-	
○ 相互受け入れの円滑化	△	⇒	△	・患者情報や空床情報の共有。地域からの利用申し込みについて、病状やADLなどを共有し、適切な療養先(地域包括ケア病棟、老健やましろ)で受け入れできるよう努めている。

施 策	目標年度			備 考
	元年度	2年度	3年度	
③活力ある組織づくり	-	-	-	
1) 医療職に選ばれ、優れた医療職が集う病院づくり	-	-	-	
○ 職員の働きがい向上対策の実施	△	△	△	
○ 就業環境の整備	△	⇒	⇒	・時間外勤務の縮減、年休取得の増を図り、働きやすい職場環境を構築
2) 働き方改革への適切な対応	-	-	-	
○ 時間外勤務の削減	△	⇒	⇒	・委員会及び会議等の構成員、開始時間の見直し。 ・時間外労働短縮に向けて実態を確認し、所属ごとに改善策を検討
○ 時間シフトや人員配置の見直し	△	⇒	⇒	・各所属における効率的なシフト等の推進
○ 医師の勤務間インターバルや交替勤務制の導入の検討				
○ 複数主治医制や担当医制の検討				
○ 休暇がとりやすい制度・体制の構築	△	⇒	⇒	・R3年9月末時点での有給休暇(5日)取得状況を把握し、達成状況を所属長へフィードバックを行った。今後、全体会議を通じ各部署へ取得促進の周知を行う。
3) それぞれの部署・職種の生産性向上	-	-	-	
○ 職員が意見を述べやすい職場づくり	△	⇒	⇒	・部署内ミーティングなどを活用して意見を述べる機会を創出
○ 若手職員の職種間交流や改善提案を促す取り組み				
4) 広報活動やイベントの充実	-	-	-	
○ 地域住民・医師会等に対する積極的な広報	△	⇒	○	・やましろタイムズやホームページなどの広報媒体を使い、診療情報や新型コロナウイルス感染症に関する情報を地域に発信している。
○ 地域住民等に対するイベントの充実、各職種の積極的な参加促進	△	△	△	・当院主催イベント、対外的なイベントへの参加は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、中止となるものもあったが、リモートで参加できるものについては、積極的に参加した。

3. 医師の配置状況 (各年度9月末現在)

	令和3年度	令和2年度	前年度比
	人	人	人
内科	1(1)	1(1)	0
消化器内科	4(4)	4(4)	0
循環器内科	3(2)	3(2)	0
呼吸器内科	0	0	0
腎臓内科	4(2)	3(2)	1
糖尿病・代謝内科	4(2)	4(2)	0
リウマチ科	2(1)	2(1)	0
総合内科	1(0)	0	1
脳神経内科	3(3)	3(3)	0
小児科	5(3)	5(3)	0
外科	2(2)	2(2)	0
呼吸器外科	1(1)	1(1)	0
消化器外科	2(2)	2(2)	0
乳腺・内分泌外科	3(2)	2(1)	1
小児外科	1(1)	1(1)	0
整形外科	2(2)	2(1)	0
脳神経外科	1(1)	1(1)	0
皮膚科	1(1)	1(1)	0
泌尿器科	3(2)	3(2)	0
泌尿器科(人工透析)	0	0	0
放射線科	4(4)	4(3)	0
麻酔科	3(2)	4(3)	▲1
産婦人科	4(3)	4(3)	0
眼科	2(1)	2(1)	0
耳鼻咽喉科	0	0	0
病理	0	0	0
研修医	8	8	0
合 計	64	62	2

※常勤医師(会計年度任用職員含む)の数

※()内は専門医 再掲

4. 令和3年度 上期経営状況（4月～9月）

(1) 収益的収支

(単位：千円)

	3年度上期 (4～9月)見込額	2年度上期 (4～9月)実績額	(4～9月)前年比
事業収益	4,144,055	3,598,441	545,614
うち入院収益	2,236,860	2,042,373	194,487
うち外来収益	1,316,857	1,133,791	183,066
事業費用	3,966,364	3,690,770	275,594
うち給与費	1,918,946	1,850,245	68,701
うち材料費	1,108,462	969,640	138,822
うち経費	579,944	563,395	16,549
経常損益	220,556	△ 65,021	285,577
特別損益	△ 42,865	△ 27,308	△ 15,557
純損益	177,691	△ 92,329	270,020

(2) 患者数

(単位：人)

	3年度上期 (4～9月)実績額	2年度上期 (4～9月)実績額	(4～9月)前年比
外来延患者数	70,482	63,020	7,462
入院延患者数	40,441	37,949	2,492
新入院患者数	3,028	2,644	384
総紹介患者数	5,481	4,127	1,354
うち初診紹介患者数	4,073	2,971	1,102